

イトウ生息地を脅かす砂防ダム なんていらない

イトウ保護連絡協議会

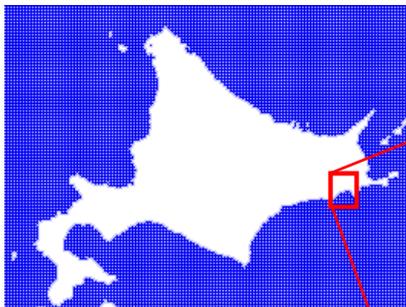
2004年7月11日 「北海道淡水魚保護フォーラム in 釧路」ポスター発表

2002年の暮れ、イトウ保護を目指す私たちに**衝撃的なニュースが**

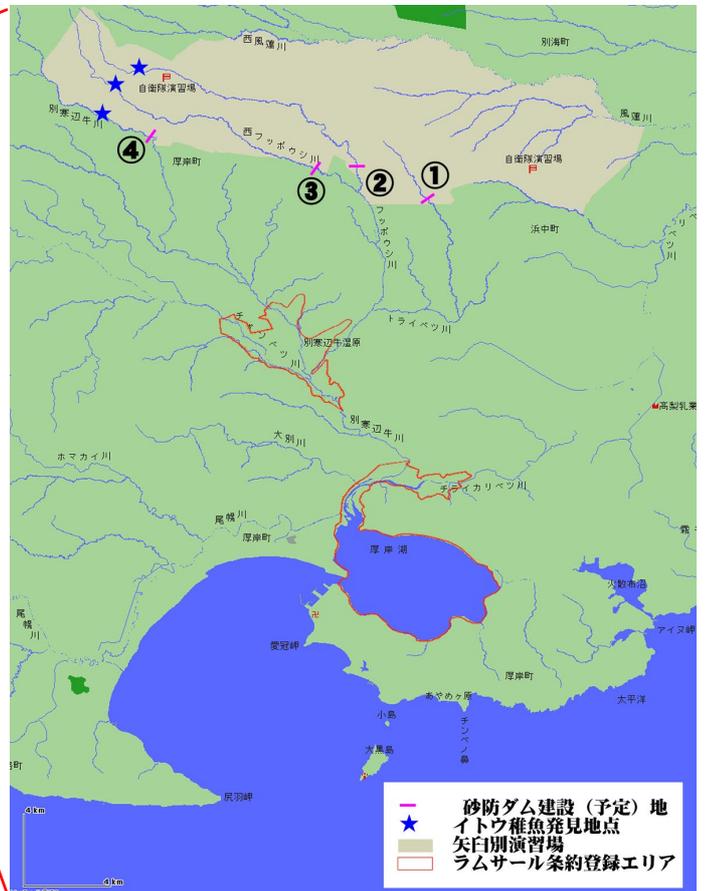
もたらされました。ラムサール登録湿地として知られる別寒辺牛湿原の源流部に巨大な砂防ダムが建設され、別寒辺牛湿原に生息するイトウたちの繁殖地が壊滅しかねない状態

になっている、というのです。ダムを建設したのは厚岸町役場。防衛施設庁の委託を受けて、「陸上自衛隊矢臼別演習場」内の別寒辺牛川の本流と支流に計4基のダム建設を計画し、最初の1基（トライベツ川砂防ダム）は、すでにほぼ完成していました。

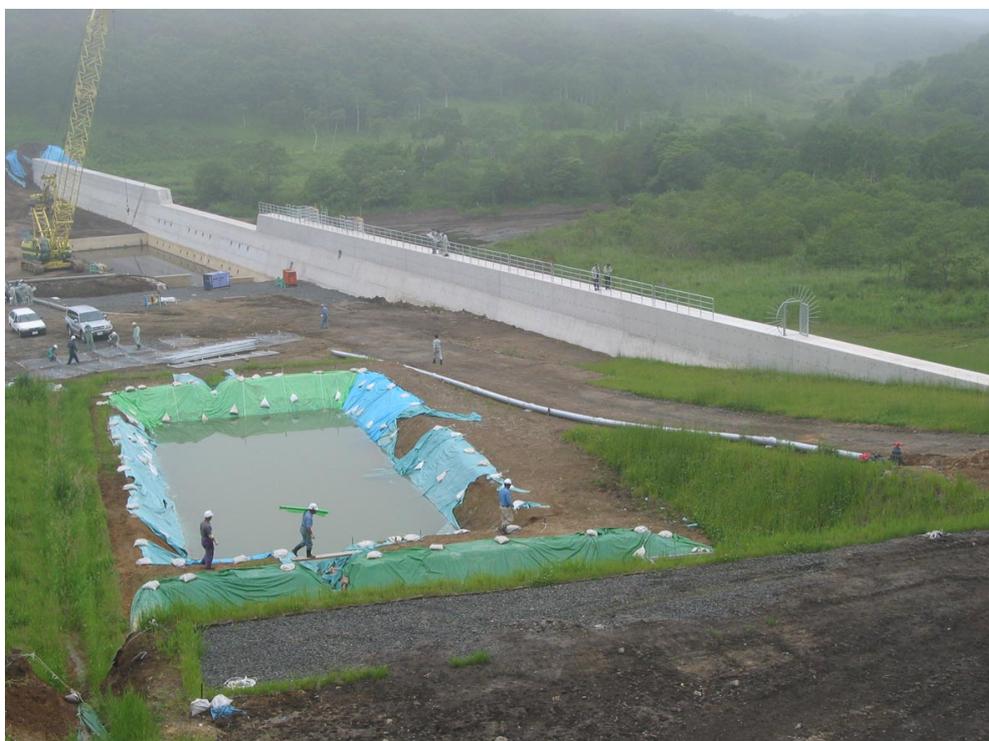
報道をきっかけに、イトウファンや自然保護団体などを中心に建設反対の声が高まり、2003年4月、防衛施設庁などは建設を一時凍結し、是非を話し合うための第三者検討委員会を設置しました。



別寒辺牛川位置図



完成間近いトライベツ川砂防ダム（2002年7月に撮影）



写真提供＝別寒辺牛川流域イトウ保護連絡協議会

防衛施設庁と厚岸町が別寒辺牛川水系に建設・計画した砂防ダムの規模

名称	堤高	長さ	総工費
トライベツ川砂防ダム	5.0 m	218 m	約6億円
フッポウシ川砂防ダム	4.3 m	182 m	約7億円
西フッポウシ川砂防ダム	4.5 m	290 m	約10億円

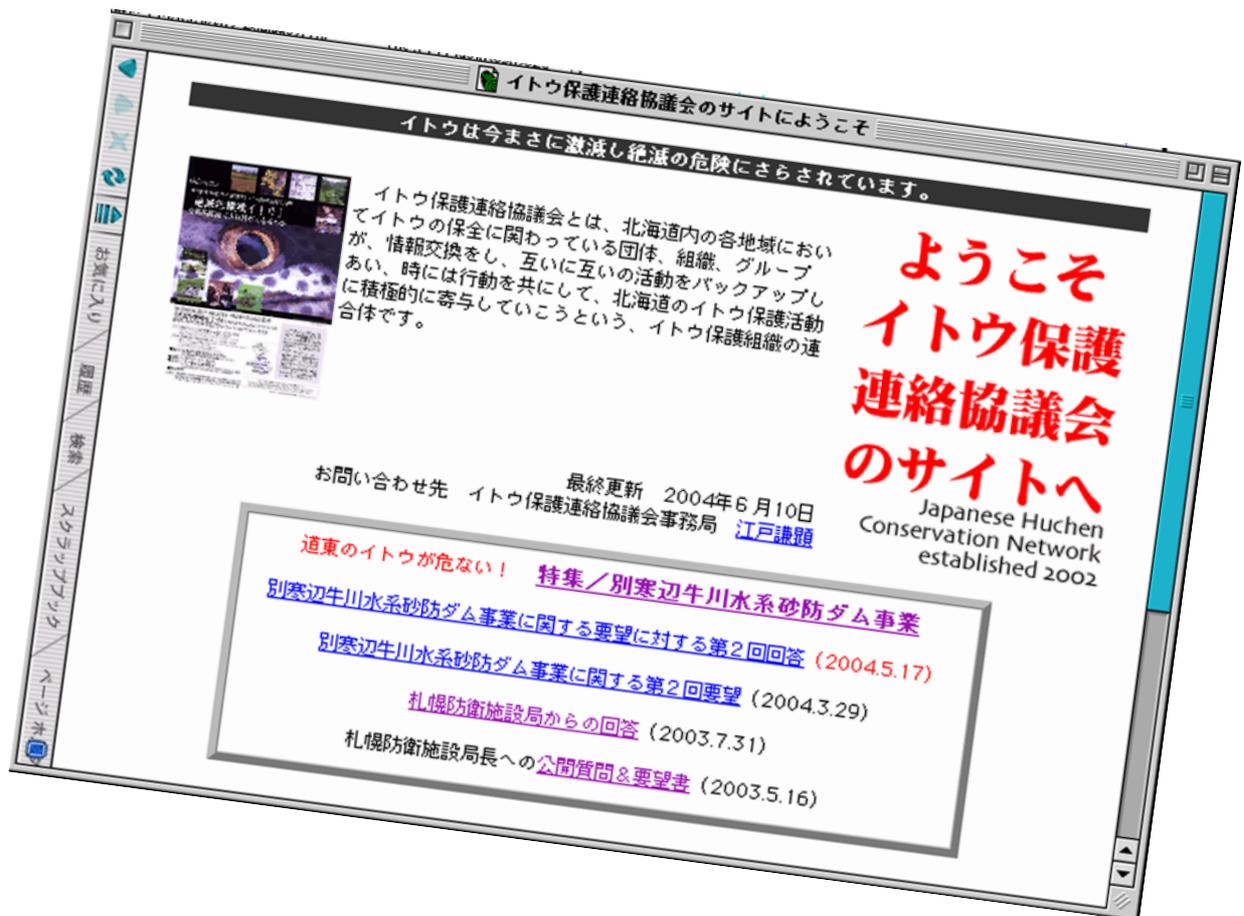
（データは札幌防衛施設局事業部施設対策第一課による）

イトウ保護連絡協議会は2003年5月、防衛施設局に公開質問状を出し

ました。それはこんな書き出しで始まります。

〈我々は、北海道内の各地域でイトウの保護活動を行っている団体の連合体で、イトウ保護連絡協議会とい

います。表題の件につき、貴職がダム建設の一時中断、検討委員会の設置を決定したことについて、心から歓迎したいと思えます。しかしながら、北海道のイトウが絶滅することなく次世代へと伝えられていくことを切に願う我々にとって、現段階で別寒辺牛川のイトウが絶滅の淵から完全に逃れられたと安堵することは到底できません—〉



<http://homepage3.nifty.com/huchen/itou-net/index.html>

矢臼別演習場・別寒辺牛川水系土砂流出対策等検討委員会における議論の経過

札幌防衛施設局のサイトから抜粋

「本委員会の委員には、さまざまな領域や産業の方が参加されている。ともに北海道の未来を想い、河川流域における利用と保全を考え、そして未来予測に基づき、北海道の現在と未来が凝縮された別寒辺牛川流域に、我々の生き方と未来が描けるように努力し、どのような保全対策を実行すべきかを検討する委員会としたい」（新谷融委員長のあいさつ＝2003年4月25日、第1回委員会）

「トライベツのダムは土砂流出対策の安全弁として設置されたものと理解する。いろいろな土砂流出対策を組み合わせることにより、トライベツの既存のダムを改修することも可能と考える。土砂の粒径が細かく、河道の中で処理することは大変難しいことから、河道に流入するまでの土砂生産源対策、表面流対策も講じるべきである」（委員の意見＝2003年6月13日、第2回委員会）

「トライベツ川のダムは、一般的なダム構造物として周辺の地形との関係でみると違和感はないが、泥湿地にダムを設置したことは違和感がある。また、フッポウシ川及び西フッポウシ川に通常のダムを設置することには違和感がある」（委員の意見＝2003年6月13日、第2回委員会）

「イトウが魚道下段を遡上して産卵していることは事実であるが、中段、上段となれば遡上距離が長くなるため、イトウは上らなくなり、魚道として機能しなくなるのではないかと。また、ダムによる堆砂と水位上昇とによって上流の産卵床は失われると考えた方がよい」（委員の意見＝2003年11月7日、第3回委員会）

「ダムによる河床環境の変化により、イトウだけではなく、すべての魚類についてどういう影響が出るか、これから考えていかなければならない」（委員の意見＝2003年11月7日、第3回委員会）

「魚道部分を樹林化しても、堆砂域は水深が浅いため、水温上昇を防ぐことはできない。また、ダムに堆積した土砂が落葉等とともにヘドロ化することが考えられることから、水質調査が必要である」（委員の意見＝2003年11月7日、第3回委員会）

「別寒辺牛川水系の各河川の流域界を明確に示すとともに、**航空写真による情報を整理して詳細な解析**を行ってほしい」(委員の意見＝2003年11月7日、第3回委員会)

「上空からの視察では土砂が流出しているという実態は認められなかったが、**50年確率の降雨があった場合、どのようになるかを予測**しなければならない」(委員の意見＝2003年11月7日、第3回委員会)

「別寒辺牛川水系の支流は、**枝沢の先端まで自然が残されているので、手を加えないでほしい**」(委員の意見＝2003年11月7日、第3回委員会)

「演習場を含む**流域と湿原とのかかわりが現状としてどのようになっているか判断**できるよう**分析を進めてほしい**」(委員の意見＝2003年11月7日、第3回委員会)

「湿原の存在が**流出土砂のバッファゾーン**となっている」(委員の意見＝2003年11月7日、第3回委員会)

「産卵床調査において現地踏査したところ、**着弾地から土砂が流出した痕跡は確認されなかった**」(委員の意見＝2003年11月7日、第3回委員会)

「水質、底質に関するダムの影響は、経年の蓄積された結果出てくるものであることから、**長期間経過したダムでリファレンス**の調査を実施することも必要と思われる」(委員の意見＝2004年4月13日、第4回委員会)

「**トライベツ川ダムのスリット化**に加えてダム上下流の現況に手を加えて土砂をコントロールする措置が必要である」(委員の意見＝2004年4月13日、第4回委員会)

「大豪雨に対する安全弁としてダムが設置されているが、**イトウの生息環境を阻害した可能性があるとのことから現行の土砂流出対策を再検討**する必要がある」(委員の意見＝2004年4月13日、第4回委員会)

矢白別演習場・別寒辺牛川水系土砂流出対策等検討委員会の中間報告

(2004年7月6日)

約1年にわたる各種調査結果及び検討等から、本流域に係る演習場内の土砂流出対策の今後の方向性等についてとりまとめると次のように考えられる。

- ・別寒辺牛川水系の土砂流出対策については、各流域の**土砂流出・生物（特にイトウ）** 生息環境に**十分配慮すべき**と考えられる。
- ・トライベツ川ダムについては、新たな土砂生産源対策とイトウなどの生息環境保全に配慮した既存施設の改修を検討することが必要と考えられる。特に、環境保全と施設機能確保を両立させるため、**ダム上下流の流水の落差・分断を回復する**改良方法について具体的な検討が早急に必要と考えられる。
- ・現在計画中的のフッポウシ川、西フッポウシ川流域の土砂流出対策としては、水辺環境を保全し、演習場としての機能を損なわない土砂流出対策として、**生産源対策を含めた新たな対策工法の検討**が必要と考えられる。

流域が同様の丘陵台地に囲まれている釧路湿原の河川において、降雨時の濁度を観測しており、そのデータからは小雨時には濁度が低いが、大雨時には濁度が急激に増大していることから、別寒辺牛川水系においても降雨と土砂動態との関係を把握するために**今後も土砂移動モニタリングを実施する**必要があると考えられる。

また、流域としての土砂収支バランスを図るためには、上記にあわせて現在実施中である調査により、河道周辺の**湿地における土砂滞留効果（バッファ効果）**、リファレンスとの比較分析による過剰流出土砂量を把握するなど、長期的な検討を行わなければならないと考えられる。さらに、演習場内からの土砂流出に伴う汚濁や既設ダムがイトウなどの生物生息環境に及ぼす影響を把握するため、**引き続きモニタリングを実行**していく必要があると考えられる。

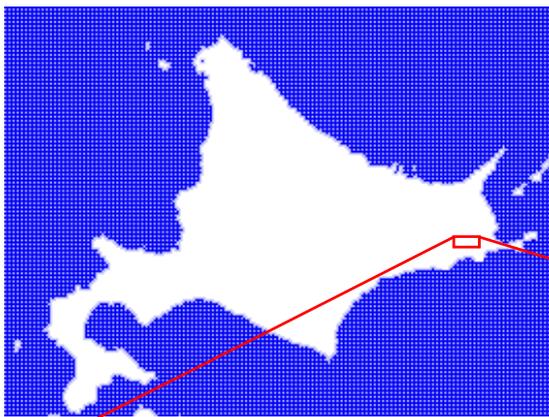
なお、上記課題については関係機関との協力の下に実施していく必要がある。

矢白別演習場・別寒辺牛川水系土砂流出対策等検討委員会／矢白別演習場・別寒辺牛川水系土砂流出対策等検討委員会事務局『矢白別演習場・別寒辺牛川水系土砂流出対策等に関する中間調査報告書【概要】(案)』（第5回矢白別演習場・別寒辺牛川水系土砂流出対策等検討委員会・討議資料、平成16（2004）年7月6日）より抜粋

防衛施設庁のダムに脅かされているイトウ生息地は、別寒辺牛川だけではありません。たとえば風蓮川上流

部の陸上自衛隊・矢臼別演習場内では、すでに10あまりの砂防ダムが建設、あるいは計画されています。また道北・猿払村の鬼志別演習場内を流れるチライベツ川にも、巨大な砂防ダムが建設されています。どちらもイトウ生息河川です。私たちイトウ保護連絡協議会は2004年3月29

日、2回目の要望書を防衛施設庁に送付して、「風蓮川水系ほかの砂防ダムを撤去して下さい」などと申し入れました。



矢臼別演習場内の砂防ダム（政府答弁書を参考に作図）



猿払村・鬼志別演習場内の砂防ダム（政府答弁書を参考に作図）

自衛隊演習場内でイトウ生息地を脅かしていると考えられる砂防ダム

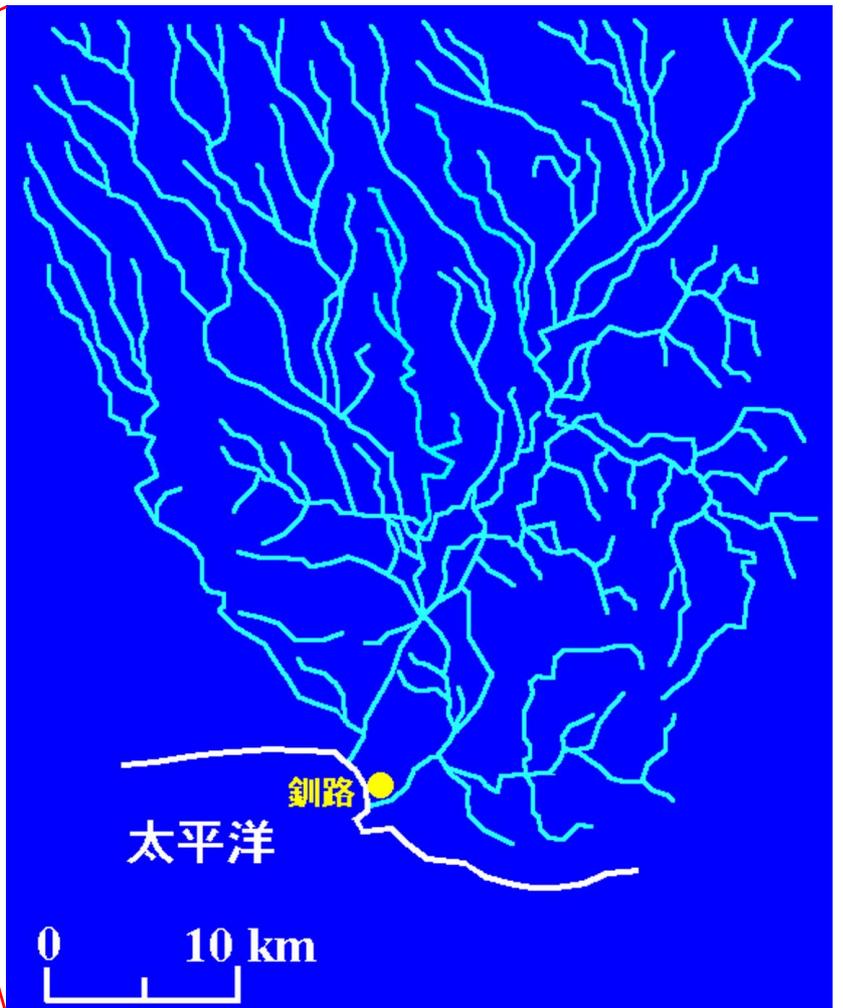
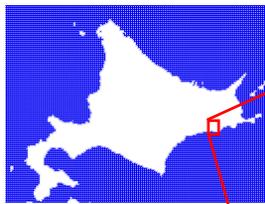
番号	演習場	ダム名	幅m	高さm	委託先	備考	
1	矢臼別大演習場	西風蓮川砂防工7号	102	7	別海町	既設	
2		西風蓮川砂防工2号	77	9	別海町	既設	
3~10		——	——	——	別海町	既設	
11		三郎川砂防工	——	——	別海町	計画中	
12		熊川砂防工	107	5.6	別海町	計画中	
13		樺沢砂防工	103	6.2	別海町	計画中	
14		西風蓮川砂防工第13号	113	5.7	別海町	計画中	
15		フッポウシ川砂防工	182	6.3	厚岸町	計画中	
16		トライベツ川砂防工	218	7.1	厚岸町	既設	
		鬼志別演習場	知来別川支流土砂流出対策	169	7	猿払村	既設

参考／「衆議院議員児玉健次君提出北海道矢臼別演習場の砂防施設建設によってもたらされるラムサール登録湿地・別寒辺牛（べかんべうし）湿原に生息する絶滅危惧種イトウ（サケ科）の危機及び厚岸湾水産資源への悪影響について、また別海町町道に設置される監視カメラによる住民プライバシー侵害問題等に関する質問に対する答弁書」（2003年3月14日、内閣総理大臣が衆議院議長に提出）http://www.shugiin.go.jp/itdb_shitsumon.nsf/html/shitsumon/b156017.htm

イトウ個体群は各地で絶滅の危機に瀕しています。かつて「イトウ釣りのメッカ」と言われた釧路川水系で

すら、近年はわずか1本の支流でイトウの繁殖が確認されているに過ぎません。流域面積約2510平方キロメートル(東京都の面積=約2181平方キロメートル)、流路延長約154キロメートルを誇る大湿原河川ですが、いまやイトウが繁殖に利用できる環境は、流域面積のわずか2パーセント程度まで激減してしまっているのです。

イトウ保護連絡協議会に参加する各地の団体は、こうした現状に大きな危機感を抱きながら、イトウから一日も早く「絶滅危惧種」のラベルを剥がそうと活動を続けています。



釧路川
流域面積 約2510平方km
流路延長 約154km
イトウ産卵河川 1支流
(全流域面積の2.1%)
データと図版提供=江戸謙顕氏

イトウ保護のための宣言

イトウ保護連絡協議会

2002年10月13日、
「北海道イトウ保護フォーラム 2002 in ニセコ」会場で宣言

1. イトウ保護連絡協議会は、北海道のイトウが今まさに激減し絶滅の危険にさらされていることを認識し、イトウを絶滅させることなく次世代へと伝えていくために、積極的に保護活動をおこないます。
2. イトウ保護連絡協議会は、イトウを河川生態系の象徴として捉え、本種の保護活動を通じて、本種のみならず流域全体の多様な河川生態系の保全に寄与していきます。
3. イトウ保護連絡協議会は、各地域におけるイトウ保護活動を通じて、河川と地域社会との健全な関係を模索し、もって自然環境に配慮した、地域社会の健全な発展に寄与していきます。

イトウ保護連絡協議会・参加団体（50音順）
釧路自然保護協会（釧路市）／猿払村商工会青年部（猿払村）／
斜里川を考える会（斜里町）／朱鞠内湖淡水漁業協同組合（幌加
内町）／尻別川の未来を考えるオビラメの会（ニセコ町）／ソラ
プチ・イトウの会（南富良野町）／別寒辺牛川のイトウを守る会
（釧路市）／別寒辺牛川流域イトウ保護連絡協議会（厚岸町）